



Annual Report 2016



目次

代表挨拶	3
四半世紀をふり返って	4
国際協力	8
環境保護	10
地域活性化	13
災害救援	16
子どもの教育支援	18
危機対応研究所	19
その他の事業	20
研修	21
キャリアサポートクラブ	22
協賛一覧	23
メディア掲載	24
表彰	25
収支報告	26
団体概要	27



代表理事挨拶

本協会も、発足から25年目を迎え、四半世紀という時間の経過に驚きを感じているところであります。

そんな過去をふり返って見ますと、創設期から、国際協力・環境保護・社会福祉（現在地域活性化）・災害救援、さらに子どもの教育支援を加え、総事業数2,471の事業を行い、延べ89,605名の学生らが、厳しい環境の中で「学生は微力だが、無力じゃない」を合言葉に、それぞれ汗と涙を流して参りました。

最近の状況として昨年の活動は、4月14日に発災した熊本地震救援活動から始まり、継続事業となった夏のプロジェクト、春のプロジェクト118事業を実施し、延べ5,691名が参加しました。また、学生会員数は90大学約3,500名となり、会員は31の地域にあるクラブ（支部）に所属しています。

そして、各クラブが独自に行っている地域での事業数は、554事業となり、これらを合わせると昨年一年間だけで672の事業に延べ10,809名が活動に参加する規模となっております。

また、7月には、茨城県古河市と災害協定を結び、本年2月には三重県熊野市と地域活性化及び災害協定を結びました。これで、新潟県関川村、そして静岡県西伊豆町を含めて4つの自治体と協定を結び、今後の協力関係を強化することになりました。

これらの実績は、多くの方々のご支援、ご協力あってのことです。改めまして心より感謝申し上げます。

それにしても、25年間を考えてみますと、「知ること・学

ぶこと」による「反省」の繰り返しであったように思います。

そんな中、多くの方々に知ってほしい、さらに伝えていかなければならないと思っていることがあります。それは、第一に開発途上国において、物質的に恵まれない人たちが、物質的に恵まれた私たちよりも、何倍も精神的に豊かに生きているということ。

第二に、国内外を問わず、活動に参加した学生たちは、活動での学びや経験を活かして、社会でたくましく生きているということ。

そして第三に、活動の現場では、ボランティアをする側も受ける側、共に大きな学びがあり、これをきっかけに個人の成長はもちろん、活動も大きく成長する可能性があるということです。

これらを多くの方々にご理解いただき、社会の課題解決の糸口として、この活動が広がっていくことを期待したいものです。

今年度も、「熱意は人を動かし、社会を動かす」をミッションに掲げ、若者の持つパワーと感性を活かして社会に貢献して参ります。皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠



四半世紀 をふり返って

おかげさまで IVUSA は今年、創設 25 年目を迎えました。
ここまでの軌跡をふり返り、ターニングポイントだったと思われる
時期に活躍した OB・OG にインタビューしました。

「プライスレスな経験が できる学生団体として」

1995 年 1 月のある日、大学 4 年最後の卒業試験を受けに大学
へ向かうとある一枚のポスターに目が留まりました。

「阪神地震救援ボランティア募集」

同期生との卒業旅行の行先を海外から神戸に変更しました。救
援ボランティアから帰ってきて感じたことは「プライスレスな経験
をした」ということでした。この貴重な経験をさせていただいた恩
返しはどうしたらよいか？卒後 2 年経過した時にその答えを下村
代表に伝えました。

「社会人になっても協会の活動に協力します」

実は学生時代、某自動車会社の内定
をいただくも、災害ボランティアの経
験から医療従事者への道を選んだ私の
仕事の関係から、海外での活動は難しく、
国内の災害救援活動を中心に学生と一
緒に汗を流すことをモットーにしてき
ました。

「テレビの情報ではわからないことが
沢山ある。現場に行くのが一番」が数多くの災害現場で活動した私の持
論です。一つとして同じ現場はなく、一期一会です。ボランティア経験
が多いと救援活動に対する慣れが少なからずあるものですが、被災され
た方にとっては、初めての経験であることを忘れないように心がけてい
ます。



年度	1992	1993 (第 1 期)	1994 (第 2 期)	1995 (第 3 期)	1996 (第 4 期)	1997 (第 5 期)	1998 (第 6 期)	1999 (第 7 期)	
IVUSA のいきなり	● 国土館大学「夢企画」より「ラ オス小学校建設活動」実施。 (～1999)	● 「多摩川清掃大作戦」がスター ト。(～2014) ● 北海道南西沖地震救援活動を 実施。	● 国土館大学のサークルとして 「国際ボランティアサークル」 が誕生。後に IVUSA となる。	● 「戦没者遺骨収集活動」がス タート。(～現在) ● 阪神淡路大震災救援活動を実 施。この参加者により IVUSA はインカレ団体となる。	● 韓国ハンセン氏病ボランティ ア団体「常緑会」より「常緑 村」におけるボランティア活 動に対して感謝状。	● 厚生大臣より阪神淡路大震災 災害救援活動に対し感謝状。 (～2009) ● 「日韓学生ハンセン氏病患 者支援活動」がスタート。 (～2009)	● 会員数 50 名突破。	● 「インド住宅建設活動」がス タート。(～現在)	● 台湾中部大地震災害救援活動 を実施。 ● 新潟県十日町市での地域活性 化活動がスタート。(～現在)
世の中のいきなり		● 北海道南西沖地震 環境基本法成立	● 松本サリン事件 ● アフリカのルワンダ内戦終 結	● 阪神淡路大震災 ● 地下鉄サリン事件		● 原爆ドーム世界遺産登録 ● 薬害エイズ訴訟でミドリ十 字社が謝罪し、患者との和 解成立	● 京都議定書締結 ● マザー・テレサが死去	● 特定非営利活動促進法 (NPO 法) 成立 ● まちづくり三法が施行	● 台湾中部大地震 ● 平成の大合併(市町村合併) が始まる

「災害救援は現地に元気を置いてくる」

これは間違いではありませんが、被災前の状態に近づけるため
に奮闘する学生の姿が、結果として被災地に元気を置いてくること
なると思います。

災害現場の安全は保障されていません。仲間が怪我をした時、
手当てができるように。また偶然街中で倒れている人に遭遇した時
に、見て見ぬ振りをしないように。

このような趣旨から発足当時、全会員が東京消防庁の救命講習
会を受講していましたが、協会自前で講習会を開催するとの方針か
ら、危機対応研究所を立ち上げ、宮崎所長を中心とするスタッフと
私や医師も教科書作りに参画して危機対応講習 (CMT) 制度が確
立され、現在に至ります。

このような実績の積み重ねが評価され、2006 年に防災功労者内
閣総理大臣賞を受賞できたのだと思います。

現在 4,000 名の会員規模の団体へと成長しましたが、私が学生

時代の会員数は二桁でした。なぜここまで拡大路線を続けられたの
か。それは「挑戦」というよりは「諦めない心」を持ち続けたから
だと思えます。

卒後も当協会の活動を多くの社会人の先輩方にご支援いただい
けるような組織となるように運営に尽力し、これからも「夢」の実現
に向けて、決して諦めないという理念を持ち
続け、社会から期待される学生団体の理事と
して、もう少し恩返しを続けていきます・・・

Profile

藤本 行和

特定非営利活動法人国際ボランティア学生
協会 理事

国土館大学卒 (2 期生)

東京消防庁消防学校 教官

消防司令補 統括

救急救命士 日本赤十字社救急法指導員





「セクショナリズムを超えて チームで動く」

私が IVUSA に出会ったのは大学 2 年生の 9 月でした。その年の 8 月に中国・大連での活動があったのですが、そこに参加していた同じ大学の友人に誘われて、定例会と大連の活動の打ち上げに参加したのがきっかけです。

インド住宅建設プロジェクトへの参加する意思を固め、そのまま翌年 2 月の役員選挙にでることとなり、気づけば当時立ち上がったばかりの千代田支部の支部長となっていた・・・というのがスタートでした。

当時の IVUSA は、様々な地域で支部を設立し、2002 年には NPO 法人となり、国士舘大学のサークルからインカレの団体へと変わっていく転換期でした。

大学に入ると、他の大学の人と知り合うきっかけが意外と少なく、「インカレ」であることは私にとっても大きな魅力でした。もし私の所属していた大学に IVUSA と同じような活動をする団体があったとしても、それがインカレでなかったら、積極的に参加することはなかったと思います。

国士舘大学の「体育会」的な文化だった IVUSA に、いろんな大学の学生が入ってくるわけですから、大きなハレーションが起きそうなものですが、私自身はそんなにギャップを感じたことはありませんでした（もちろん、これまでのやり方を変えようとしたこともありました…）。

それは、大学や所属の違いどころではなく、とにかく個性的な同期メンバーがいたからだだと思います。私たち 11 期は「企み体質」

それは、大学や所属の違いどころではなく、とにかく個性的な同期メンバーがいたからだだと思います。私たち 11 期は「企み体質」

2000 (第 8 期)	2001 (第 9 期)	2002 (第 10 期)	2003 (第 11 期)	2004 (第 12 期)
<ul style="list-style-type: none"> ●建設省（現国土交通省）より多摩川清掃に対して河川環境保全功労賞。 ●「ネパール山村支援活動」がスタート。（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●国士舘大学以外の初の拠点として、法政大学、フェリス学院大学にクラブ（支部）が誕生。 ●「ネパール山村支援活動」がスタート。（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●会員数 100 名突破。 ●山梨県小菅村での地域活性化活動がスタート。（～2008） ●1997 年からフィリピンに古着を送ったことに対してフィリピン福祉大臣より感謝状。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「中国黄土高原緑化活動」がスタート。（～現在） ●韓国 Green Net 韓国青少年連盟と「日韓合同事業における国際協定」を締結。 	<ul style="list-style-type: none"> ●立命館大学を中心とした関西支部が発足。 ●新潟県中越地震災害救援活動を実施。 ●新潟県関川村での地域活性化活動がスタート。（～現在） ●中国のハルビン市科学技術協会と「ハルビン市科学技術協会との友好協定」を締結。
<ul style="list-style-type: none"> ●国連が定める「ボランティア国際年」 ●中央省庁再編 ●アメリカ同時多発テロ ●東京ディズニーシーが開業 ●アフガニスタンへの空爆開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●三宅島が噴火 ●少年法改正により、刑事罰対象年齢が 14 歳になる ●国連ミレニアムサミットで、ミレニアム開発目標 (MDGs) が採択 	<ul style="list-style-type: none"> ●欧州単一通貨「ユーロ」の流通開始 ●サッカー日韓ワールドカップ開催 ●持続可能な開発に関する世界首脳会談（地球サミット）が南アフリカで開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●イラク戦争勃発 ●早大サークル「スーパーリー」のメンバー 5 名が逮捕 	<ul style="list-style-type: none"> ●新潟県中越地震 ●狂牛病発生に伴い、吉野家が牛丼の販売を中止 ●性同一性障害特別法が施行

というか、基本的に「目立ちたがり屋」というか、プロジェクトも定例会も宴会芸も「より濃く・より面白く」実現したいこだわりが強いメンバーが揃いました。多様なバックグラウンドを持った人が集まった方が、より面白いことができるということを実感しましたね。

IVUSA は今、私が学生だった頃と比較にならないくらい大きな組織となり、個性溢れる人材の宝庫だと思います。ただ、大きな組織になった分、「縦割り化」や「セクショナリズム」による弊害も出ているのではないのでしょうか。

私も会社では一つのビジネスユニットに所属して仕事をしており、組織はまさに「縦割り」です。ただし、組織の枠に縛られては、人も発想も硬直化し、スピードの速い市場環境の変化に対応し切れないため、横串での取組みや、横断的なチームで視点を広げた新しいビジネスの企画や挑戦を奨励されています。

IVUSA でも、一つのクラブやプロジェクトに所属しつつも、いか

にその壁を越えてチームとして動くことが求められると思います。これらの経験は社会に出てからも大きなアドバンテージになりますので、IVUSA という大きな組織規模のフィールドを活用し、是非挑戦してみてください。きっと「より濃く・より面白い」自分だけの何かを実現できるはずですよ。

Profile

伊藤 美樹

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 理事
法政大学卒（11 期生）
株式会社日立製作所 情報・通信システム社勤務



「関西支部ができたころ」

2005年～2009年まで所属し、2007・2008年度副学生代表。かかわった活動は、中国黄土高原緑化活動、インド小学校建設活動、メキシコ水質浄化設備建設活動、天草清掃活動、琵琶湖清掃活動、滋賀里山支援活動等です。2009年立命館大学政策科学部卒業、新日鉄住金エンジニアリング株式会社に入社し、現在は大型物流センター開発の営業をしています。

2005年、IVUSA 関西が活動をスタートした翌年私は大学に入學しました。たまたま知り合った政治家の秘書の方が偶然 IVUSA の事を知っており、紹介を受ける形で関西事務局を訪問しました。そこには現在の様に単独で開設している事務所は無く、関西事務局は日本ポリグル株式会社の事務所の一部をお借りし設置されていました。

個人的には団体名に「学生」が含まれていながらほぼ学生に会わない疑問を抱きつつも活動はスタートし、活動の種を探しては会

議という名の酒盛りをしながら事務局員の方と語り合ううちに、少しずつメンバーが集まってきました。



関西でプロジェクトを行いたいと思っていたメンバーに転機が訪れたのは、京都市の隣の亀岡駅前にある池の清掃プロジェクトです。池の水抜きも行う本格的な清掃で、市との調整やプロジェクト実行作戦を練る傍ら、100名程の参加者を集めるため駆け回ったお蔭で、プロジェクトも成功を収め会員数もうなぎ上り…とはいかず、20名程度だったかと思います。

翌2006年には60名会員が集まり、運動部出身の屈強なメンバーや（将来の嫁も含め）キャラクター豊富な人材が集まりました。関西初めての海外プロジェクトであるメキシコ水質浄化活動の実施や災害派遣など活動の幅を広げるとともに、市民活動支援センターや社会福祉協議会等と関係を構築し、学生に限らず広く認知される工夫を行っていました。

それら活動を推進できたのも本部の人材やネットワークの支え

年度	2005 (第13期)	2006 (第14期)	2007 (第15期)	2008 (第16期)	2009 (第17期)
IVUSAのできごと	<ul style="list-style-type: none"> ●三宅島平野村長（当時）から三宅島噴火災害ボランティアに対して感謝状。 ●株式会社レスキューナウと「災害情報ネットワークに関する協力協定」を締結。 ●「スマトラ島大地震津波災害救援活動を実施」。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「これまでの活動の実績が認められ、「第10回防災まちづくり大賞総務大臣賞」、「平成18年度防災功労者内閣総理大臣賞」を受賞。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「カンボジア学校建設活動」がスタート。（～現在） ●新潟県中越沖地震災害救援活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●千代田区社会福祉協議会と「災害ボランティアセンターへの協力に関する協定書」を締結。 	<ul style="list-style-type: none"> ●会員数1,000名突破。 ●カンボジア国王フン・セン首相よりカンボジア教育支援活動に対して感謝状。
世の中の出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博開催 ・ホワイトバンドプロジェクトが流行 ・日本の人口が2000年の統計開始以来初の自然減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムハマド・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞し、「社会企業家」が注目される ・日本の65歳以上人口率が世界最高に 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラミン銀行総裁のト ・郵政民営化がスタート ・都立高校で「奉仕」が必修化 ・米国初の黒人大統領が誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺湖サミット開催、日本のG8が初めて連携して政策提言を行う ・都立高校で「奉仕」が必修化 ・米国初の黒人大統領が誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーマンショックが発生 ・洞爺湖サミット開催、日本のG8が初めて連携して政策提言を行う ・年越し派遣村 ・新型インフルエンザが流行 ・自民党から民主党へ政権交代

があったからこそと思います。

会員数は翌2007年には120名、2008年には250名に増え、琵琶湖清掃、天草プロジェクト、里山プロジェクトなど多くのプロジェクトを企画することができました。

一方で拡大の裏に、活動内容バランスの悪さ、会員間の意識差、新規プロジェクトの数量減などの諸課題があったことも事実です。

ただ、私が卒業した後も皆さんが活動を脈々と続けておられたことで、今年初めて会員数が関西で2,000名を超えたと聞きました。先輩として非常に嬉しく誇りに思います。

IVUSAで学んだことは多々ありますが、当時のスローガンであった「熱意は人を動かし、社会を動かす」が非常に印象に残っています。あえて付け加えるのであれば、「始める熱意」を持つことです。

琵琶湖、里山、天草での活動もスタートは情報収集・視察からはじまり、プロジェクトを進める不安はつきものですが、考え抜き熱意をもって取り組むことで、追加情報や思わぬ人脈に出会い助けていただくことも多かったと記憶しています。

現在は、新日鉄住金エンジニアリング株式会社に入社し、現在は大

型物流センター開発の営業をしています。社内外の関係者と苦勞しながらプロジェクトを作り上げる仕事ですが、うまくいかないことも多々あります。

ですが、自分の意気込みがプロジェクトメンバーにも社外関係者にも伝わるものです。そして熱意をもって孤軍奮闘していると、協力者も現れるように感じます。成功を信じて熱意を持ち取り組むことの重要性を日々感じています。

Profile

星野 倫

立命館大学卒 (16期生)

新日鉄住金エンジニアリング株式会社勤務



「人とのつながり」

2008年から2012年の4年間IVUSAに所属し、九十九里、関川、インド、雪原、竹林、災害救援等様々なプロジェクトに参加しました。

また、social action team 企画&リーダーとして様々なイベントを実施しました。

当時のIVUSAは関西の学生が増え、関東と関西で盛んに活動し、共に切磋琢磨しており、私は事務局担当の幹部役員をしていました。

その中でも常に活動する会員の移・食・住を確保し活動現場を調整しており、私の作業場はほとんどが調理場でした。

当時の得意料理は300人前のカレーです。

今は旦那さんのために作る豆腐ハンバーグです(笑)

私が特に思い入れ深い活動は東日本大震災です。2011年3月は当時大学3年生で就職活動真っ最中でした。

幸いにも3月には今の会社の内定を頂いたこともあり、大学生

活残りの1年をこの活動に没頭していました。

東日本大震災の活動でも先遣隊として先に現地に入り、現地のニーズを拾い、道具、移動手段の確保やリスクヘッジ、スケジューリングなどを毎回行っていました。

そして、活動中、ある女性との出会いが私の生き方を変えました。

女性と震災当時の状況のお話や今までの経験、普段のたわいもないお話などをしながら一緒に作業して過ごしました。

その話や、「どんな状況でも、どんな辛いことがおきても、前を向いて進んでいく。自分の生きがいを見つける」という強く生きていく姿に強く感化されました。今も私の人生の指針です。

IVUSAに所属している間、自分自身のスキルを身に着け自分自



2010 (第18期)	2011 (第19期)	2012 (第20期)	2013 (第21期)	2014 (第22期)	2015 (第23期)	2016 (第24期)	2017 (第25期)
● 関西から初の学生代表が誕生。	● 東日本大震災救援活動を実施(2011年3月より)。初めて災害救援活動に会員以外の一般参加者を募集。	● 東日本大震災救援活動を現在)	● 会員数2,000名突破。 ● 関西事務所を設立。 ● 三重県熊野市での地域活性化活動がスタート。(現在)	● 新潟県関川村と地域連携協定を締結。 ● 「琵琶湖外来水生植物除去活動」がスタート。(現在)	● 「フイリピン減災・環境保全活動」がスタート。 (現在)	● 三重県熊野市と地域連携協定を締結。 ● 第18回日本水大賞未来開拓賞を受賞。	● 熊本地震救援活動を実施。 ● 熊本地震
● 尖閣問題が発生 ● 生物多様性条約締約国会議(COP10)を愛知県で開催	● 東日本大震災、福島原発事故 ● アラブの春 ● ボランティア国際年+10	● 国連持続可能な開発会議(リオ+20)の開催	● 富士山の世界文化遺産登録 ● 高知県で国内最高気温41.0度を記録	● 御嶽山が噴火 ● 消費税が8%に引き上げ	● 関東・東北豪雨災害 ● 5人が日本人2名を拘束、殺害映像を公開	● 熊本地震 ● 18歳選挙権施行	● 25周年を迎える。これまで計2471事業を実施し、延べ89,605名が参加。

身の内面を磨いていくことが出来ました。

そのことが強く私に染みついたのは東日本大震災での活動でした。

活動するためのスケジュール、移動・食事の段取り。準備等のリスクヘッジ。

活動中にたくさんの人々の出会いから生き方を学ぶ。

前を向いて歩くこと。立ち止まらないこと。

地域のつながり、助け合い、協力。

地域を元気にする。地域を結びつける

東日本大震災救援活動ではこのことが今の私に活かしていることです。

学生の頃も、社会人になった今もこのことを特に年頭に置いて仕事をしています。

私は現在自動車販売の営業をしています。

私が住んでいるところは自動車がないと移動手段がない地域です。自動車を販売することで少しでも地域の方の生活に貢献できれば

という思いで仕事をしています。

自動車を販売すること。車購入後の点検等アフターフォローを継続し続けてもらえるために、一人ひとりのお客様と信頼関係を築いてき、自動車を通じて地域とのつながりや人とのつながりを大切に日々仕事をしています。

社会人になり、学生の頃のように現地に赴き、直接現地の方に元気や笑顔を届けることはなかなかできません。

私たちが学生時代に活動してきたようにまた後輩たちが全国各地で、世界で活動していると思うと、私も仕事頑張ろうと前を向いて出勤しています。

Profile

出月 ちひろ

国土館大学卒(19期生)

山梨スズキ販売株式会社勤務



国際協力

ネパール山村支援活動 2017



この活動は、ネパールの山奥で支援活動をされている垣見一雅氏（通称：OK バジ）の活動の一環で、2001年に始まり今回は5回目となります。

2015年4月25日、ネパールを大地震が襲いました。インフラが整っていない中、脆弱なレンガ造りの建物が多いネパールでは全国で2万人以上の犠牲者を出し、生活に影響が出た被災者は800万人に及びました。

これまで活動を行ってきたネパールのパルパ郡は震源地から200km離れていますが、家屋の倒壊や水道管の破損などの被害があり、生活に影響が出ていました。

今回活動を行ったビルパニ村では、地震の影響でヒビが入り使えなくなった小学校校舎の建て替え作業を行いました。

村まではジープ1台がようやく通れる舗装されていない山道しかなく、建設用の重機は入れません。建設作業は完全に人力に頼るものでした。

スコップで校舎の基礎部分の穴掘りから始まり、車が通れる道まで山を下った所に置かれたレンガを手で運び、基礎部分に使う岩は岩が採れる斜面まで10分歩いて手で運び、セメント用の水は水場がある谷まで30分下って10～20リットルの甕を持って運んできました。

作業は村の人と一緒にいましたが、村の人は普段の生活で水汲みや飼料採集で慣れていて、小学生の子どもや高齢の女性でも日本人学生たちより速く疲れず運んでいました。

期間中の生活は、村の人のお宅にホームステイさせて

いただきました。

ホストファミリーの方々と一緒に村の普段の食事をし、朝早くから生活用の水汲みや薪集めなど家事のお手伝いをし、ネパールの遊びを教えてもらったり日本の遊びを教えたり生活時間の中で交流を行いました。

日本に比べると決して便利とは言えない生活でしたが、一緒に過ごすうちに自然と不便さも気にならなくなり、交流から村の人の温かさに触れて家族のようになりました。

最終日には小学校の子どもたちと交流会を行いました。

大縄跳び、だるまさんがころんだ等、日本の遊びを教えるのも大変でしたが、子どもたちも要領よく覚えて盛り上がっていました。

交流会最後の式典では、明日には帰ってしまう私たちに惜しんで涙を流す村の人たちも多くいました。短い期間でしたが、村の人たちには私たちの事を忘れられない存在として覚えてもらえました。

後日談ですが、私たちが帰った2カ月後頃に小学校に寄った時、子どもたちが日本人学生の名前を叫びながら大縄を跳んでいると、垣見氏が言っていました。

日本とは全く違う環境のネパールの村。日本に比べると確かに不便な生活ですが、そこには不便だからこそその助け合いと、人を受け入れる温かさに満ち溢れていました。

支援活動に行ったはずが、心豊かに生きる村の人たちに触れ、日本の生活で感じられない貴重な価値を実感した活動でした。



期間：2017年3月1日～3月15日

場所：ネパール連邦民主共和国ルンビニ県パルパ郡ミッテルVDCビルパニ村 参加人数：22名

活動内容：震災で改築になった小学校校舎の建設作業補助。基礎のための穴掘り・石運び・水運び、ホームステイでの生活体験と水汲みなどの補助



第 10 次インド住宅建設活動

期間：2017年2月14日～2月28日
 場所：南インドケララ州 参加人数：29名 活動内容：
 住宅建設、文化交流 カウンターパート：M.A.Math



第 12 次中国緑化活動

期間：2016年9月5日～14日
 場所：中華人民共和国吉林省白城市
 参加人数：30名
 活動内容：下草刈り、植林、文化交流
 カウンターパート：中華全国青年連合会、中国青年国際
 人材交流中心



留学生との交流

期間：2016年9月24日、2017年3月19日
 場所：青山国際教育学院、東京都渋谷区（代々木公園）
 参加人数：35名
 活動内容：日本語就学生との交流イベントの実施
 カウンターパート：青山国際教育学院



第 8 次カンボジア小学校建設活動

期間：2017年3月3日～3月14日
 場所：コンポンチャム州ソテントロン郡サンボー区ポン
 村 参加人数：85名
 活動内容：スタディーツアー（トゥールスレン収容所・
 キリングフィールド）、ミヤック小学校（7次隊建設先）
 訪問・運動会の開催、ポン小学校建設活動、ホームステイ、
 開校式及び交流企画、観光（アンコールワット・バイヨン・
 タプロム）
 カウンターパート：KHJ Construction Co. Ltd



第 3 次フィリピン減災・環境美化活動

期間：2017年2月23日～3月4日
 場所：マニラ、ヌエバエシハ州ラオー市
 参加人数：25名
 活動内容：住民との防災に関するワークショップ、台風
 で土砂が流れ込んだ用水路の復旧、道路建設作業、クリー
 ンアップ及びエコブリックス作成（ペットボトルの再利用）、
 高校での花壇建設、ミリアム大学の Environmental
 Studies Institute の学生と減災と環境美化に関する意見
 交換及び文化交流
 カウンターパート：Bridges of Inter-cultural Harmony
 Inc.、ラオー市バラングイ・ピナグバヤナンの協同組合
 KADRE

環境保護

日本海清掃



日本に漂着する海洋ごみの推計総量は31～58万トンとされています(※)。そのうち、環境省・地方自治体・民間団体などの活動により回収できた量はわずか4.5万トンです。さらに、海洋ごみのほとんどは海底や海中に存在し、海岸に漂着するのは全体の10%程度とされています。

また、漂着ゴミの発生国は、50%が日本、30%が外国、20%が国籍不明であり、漂着ごみの7～9割を占めるプラスチック類については、日本海側に関しては大半が中国か韓国製ものです。

この問題に対し、IVUSAでは、大学生や若者世代が中心となって、多様なセクターを巻き込みながら、国際的な課題である日本海沿岸の海洋ごみ問題に取り組み、美しい海洋環境を回復することを目的に、活動を始めました。

2016年度には4府県でそれぞれ第1回目の活動を実施し、現地カウンターパートやステークホルダーとの関係を構築しました。

そして、決して多くはないですが、現地の大学生や住民等の参加もあり、今後の活動を上げていく足掛かりとなりました。築いた関係をもとに、IVUSAの清掃活動のスローガンである「拾う心より、捨てない心」を広く多くの方にお伝えし、積極的に地域住民や企業など様々なセクターに働きかけ、国際的な環境問題の解決を目指していきます。

※環境省ウェブサイトより

<http://www.env.go.jp/press/101061.html>

第1回山形県日本海清掃活動

日程：2016年9月1日～5日

場所：山形県遊佐町、鶴岡市、酒田市

参加人数：会員100名、一般参加者数21名

成果：1,550袋(約3トン)を回収



第1回青森県日本海清掃活動

日程：2016年9月7日～12日

場所：青森県深浦町

参加人数：会員56名、一般参加者数3名

成果：290kg及びゴミ袋132袋の回収、漂着ゴミを活用したりサイクル制作物の作成



第1回京都府日本海清掃活動

日程：2017年3月4日～6日

場所：京都府京丹後市

参加人数：会員95名、一般参加者44名

成果：フレキシブルコンテナ(約1トン)280袋と流木を回収

第1回長崎県日本海清掃活動

日程：2016年6月5日

場所：長崎県平戸市

参加人数：会員7名

成果：軽トラック6台分(約1トン)のゴミを回収





長野県信濃町森林整備活動

期間：2016年8月6日～9日

場所：長野県信濃町、長野市、須坂市

参加人数：77名

活動内容：信濃町縦が崎県有林での下草刈り、伐倒木の整備運搬、長野市温湯地区での鳥獣緩衝帯整備・須坂氏での治山整備活動、現地交流会

カウンターパート：長野県林務部、長野地方事務所



第15回千葉県九十九里浜全域清掃大作戦

期間：2016年8月21日～8月23日

場所：千葉県旭市、いすみ市、一宮町、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生村、横芝光町

参加人数：327名

活動内容：清掃活動、新入生向け研修

カウンターパート：上記自治体、毎日コムネット、白浜荘グループ、五郎八金物店



竹林整備活動

期間：通年 場所：神奈川県横浜市「こどもの国」

参加人数：延べ358名

活動内容：こどもの国内の竹林整備

カウンターパート：社会福祉法人こどもの国協会



淀川ワークショップ

期間：2016年5月22日

場所：大阪府高槻市 参加人数：7名

活動内容：草刈り、環境ワークショップ

カウンターパート：淀川河川レンジャー



第1回千葉県印旛沼クリーン大作戦

期間：2016年8月18日～8月20日 場所：千葉県八千代市 参加人数：82名

活動内容：印旛沼につながる神崎川に繁殖したナガエツルノゲイトウの駆除活動

カウンターパート：千葉県河川環境課



京都府京都市北山森林整備活動

期間：2016年7月10日、8月1日、10月15日、12月3日、2017年1月14日

場所：京都府京都市 参加人数：81名

活動内容：山道整備（シダ刈り・かかり木の撤去）・マツノザイセンチュウ被害による腐った樹木の伐採

カウンターパート：京都市都市計画局都市景観部風致保全課、京都市森づくりアドバイザー



琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2016

期間：2016年9月9日～11日

場所：滋賀県大津市、草津市、守山市 参加人数：430名

活動内容：琵琶湖の外来水生植物「オオバナミズキンバイ」の除去活動

カウンターパート：琵琶湖外来水生植物対策協議会

【年間を通じた除去活動】

草津市烏丸半島オオバナミズキンバイ除去活動

期間：2016年5月7日

場所：滋賀県草津市 参加人数：10名（滋賀県職員2名）

カウンターパート（主催）：滋賀県

高島市オオバナミズキンバイ除去活動

期間：2016年6月9日

場所：滋賀県高島市 参加人数：1名（他5名）

カウンターパート（主催）：滋賀県

赤野井湾再生プロジェクトオオバナミズキンバイ除去作業

期間：2016年6月19日

場所：滋賀県守山市 参加人数：36（一般参加124名）

カウンターパート（主催）：市民環境団体「夢・びわ湖」

竹生島ナガエツルノゲイトウ除去活動

期間：2016年10月22日

場所：滋賀県長浜市 参加人数：2名（他6名）

カウンターパート（主催）：近江ウェットランド研究会

第7回オオバナミズキンバイ除去大作戦

期間：2016年12月13日

場所：滋賀県守山市 参加人数：79名（一般参加120名）

カウンターパート（主催）：認定NPO法人びわ湖豊穡の郷

【関連した活動（啓発・広報活動）】

マザーレイクフォーラムびわこ会議

期間：2016年8月20日

場所：大津市コラボしが21 参加人数：7名

カウンターパート：マザーレイクフォーラム運営委員会

イナズマロック『おいで～な滋賀体感フェア』

期間：2016年9月16日～17日

場所：滋賀県草津市 烏丸半島 参加人数：29名

カウンターパート：滋賀県庁

第16回世界湖沼会議

期間：2016年11月7日

～11日

場所：インドネシア共和国バリ島 参加人数：5名

カウンターパート：インドネシア共和国環境林業省他



第16回草津市こども環境会議

期間：2017年1月28日

場所：草津市役所 参加人数：7名

カウンターパート：第16回草津市こども環境会議実行委員会

第10回淡海の川づくりフォーラム

期間：2017年2月4日

場所：滋賀県危機管理センター 参加人数：8名

カウンターパート：滋賀県 淡海の川づくりフォーラム実行委員会

第14回守山川づくりフォーラム

期間：2017年2月5日

場所：守山市コミュニティ防災センター 参加人数：6名

カウンターパート：認定NPO法人びわこ豊穡の郷

第8回こなん水環境フォーラム

期間：2017年3月5日

場所：草津市立まちづくりセンター 参加人数：4名

カウンターパート：湖南流域環境保全協議会

琵琶湖博物館環境学習ワークショップ

期間：2017年3月19日

場所：滋賀県琵琶湖博物館内 参加人数：7名



京都府阿蘇海環境づくり活動

期間：2016年8月28日～31日、2017年2月24日～27日

場所：京都府宮津市、与謝野町、京丹後市

参加人数：210名

活動内容：牡蠣殻回収、カキ殻回収イベント、商品開発会議、宮津市環境イベント、交流会、天橋立ビューランドの見学、中学生との意見交換会

カウンターパート：阿蘇海環境づくり協議会議（事務局：京都府丹後広域振興局）

助成：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協力：NPO法人丹後の自然を守る会、吉野茶屋、公益財団法人車両競技公益資金記念財団

地域活性化

熊野市



三重県熊野市での活動を開始したきっかけは2011年の台風12号水害。当時の所属学生の祖母が被災したという報を聞き、救援活動に駆けつけたところから始まりました。それから5年が経ち、災害時の出会いを基礎にした中山間地域での活動や、熊野大花火大会の運営ボランティア、商店街イベントのお手伝いなど、2017年3月末までに計33回の活動を実施し、延1,352人の学生が熊野を訪れ、地域のためのボランティア活動を実施してきました。

そして、2017年2月18日には、更に次の5年間につながる新たな関係性を次のステージに進める第一歩として地域連携協定を締結しました。協定締結に先駆けて開催した「地域の今を知り未来を考えるカンファレンス in 三重県熊野市」では、熊野市民約80名とIVUSA学生100名とで、今後更に有機的な協働を進めていくために、熊野市の抱える課題と今行われている取り組みについて知るとともに、意見交換をしながら、今後の可能性について考えました。

カンファレンスには災害発生当時、災害救援隊として当協会がお手伝いに入ったお宅の方も来て下さりました。発災当時の話から今後の連携の話に至るまで、カンファレンス後に実施した交流会を含む一日を通して、セクターや年代、出身地などの様々な垣根を越えた情報共有の場となりました。

今後はこれまで主として実施してきた観光振興に関わる事業の他、市内中山間地域と協働したまちおこしのお

手伝いなど、熊野市が抱える課題に対して当協会の強みを活かした包括的な地域支援を目指します。

熊野大花火大会活性化活動

日程：2016年8月15日～19日

参加人数：会員213名

活動内容：熊野大花火大会の運営補助、地元商店街イベントの企画及び運営補助



山間地域や地元商店街に根ざした活動実施

日程：2016年5月21日～22日、8月6日～8日、2017年1月21日～22日

参加人数：延べ25名

活動内容：地元商店街イベントの運営補助、熊野古道の景観保全活動

三重県熊野市地域活性化活動

日程：2017年2月16日～2月19日

参加人数：会員104名

活動内容：市内各地でのフィールドワーク、熊野古道につながる観光遊歩道の整備作業、「地域の今を知り未来を考えるカンファレンス」の企画・実施





長野県飯山市

期間：2017年2月8日～2月12日

参加人数：101名

活動内容：いいやま雪まつり・信濃平かまくら祭り運営レポート

カウンターパート：飯山雪まつり実行委員会、飯山商工会議所、飯山市、飯山みゆきの有志の会



静岡県西伊豆町

期間：2016年8月14日～17日、2017年2月23日～27日

参加人数：延べ242名

活動内容：ヤーコン事業の休耕田整備（草ぬきと水やり）、「安良里夏祭り」「田子みなど祭り」運営サポート、安良里海岸清掃、黄金崎環境整備、ヤーコンフェスの実施

カウンターパート：西伊豆町まちづくり課

通年事業 派遣期間 参加人数

1次派遣：2016年5月7日～8日 10名

2次派遣：2016年7月9日～10日 12名

3次派遣：2016年10月15日～16日 19名

4次派遣：2016年11月18日～20日 10名

活動内容：ヤーコン事業の休耕田整備（作付けから収穫）、住民交流会、まち歩き

カウンターパート：西伊豆町まちづくり課、宇久須まちづくり協議会



新潟県長岡市

期間：2016年5月6日～8日、6月17日～19日、7月8日～10日、8月1日～4日、8月26日～29日、10月14日～16日、11月18日～20日、2017年2月9日～12日、3月11日～13日

参加人数：延べ511名

活動内容：「長岡まつり」「栃尾まつり」「裸押し合い祭り」「ほだれ祭り」の運営サポート、児童養護施設「愛児園」「双葉寮」の子どもの交流

カウンターパート：NPO法人ネットワーク・フェニックス、栃尾観光協会、長岡市社会福祉法人栃尾支所、長岡市栃堀集落、長岡市下来伝集落、栃尾同住会



京都府和束町、笠置町、南山城村

期間：2016年11月5日～6日、2017年3月27日～28日

参加人数：延べ150名

活動内容：茶源郷祭りの運営補助、ブースの出展、空き家の清掃、廃棄物、廃棄家財等の運び出し、フィールドワークの実施、ワークショップ・交流会（空き家活用アイデアの提案）

カウンターパート：合同会社茶油屋農場、和束町地域おこし協力隊、合同会社 YouandVillage



新潟県十日町市

期間：3月10日～12日

参加人数：延べ214名

活動内容：「十日町雪まつり」「雪原カーニバルなかさと」の運営サポート

カウンターパート：十日町市役所中里支所、(公社)十日町青年会議所



福岡県星野村

期間：2016年6月26日、11月20日、2017年2月25日～27日

参加人数：延べ60名

活動内容：広内棚田の景観保全活動

カウンターパート：NPO 法人がんばりよるよ星野村



東京都利島村

期間：2016年8月2日～9日

参加人数：延べ79名

活動内容：椿農家のお手伝い

カウンターパート：株式会社利島



新潟県関川村

期間：2016年8月26日～29日、2017年2月4日～6日、2月10日～2月13日

参加人数：延べ297名

活動内容：「大したもん蛇まつり」「七ヶ谷雪ほたるまつり」「大石どもんこまつり」「えちごせきかわ雪まつり」の運営サポート、地域でのボランティア、防災教室

カウンターパート：関川村役場、関川村観光協会、タランペクラブ、大石山と川に親しむ会



岡山県備前市（日生諸島）

期間：2016年9月15日～18日、2017年3月3日～6日

参加人数：延べ184名

活動内容：古代体験の郷まほろばでの整備活動と整備計画の作成、フィールドワーク、地域住民との交流会と活性化に向けたワークショップ、

カウンターパート：備前市、古代体験の郷まほろば（備前市指定管理ベネフィットホテル株式会社）

災害救援

平成 28 年度熊本地震救援活動



2016年4月14日午後9時26分頃に熊本県熊本地方においてM6.5、震度7の地震が発生。二日後の16日(土)午前1時25分頃、M7.3、震度7の地震が発生。その後もM5～6の地震が多数発生し、政府は被害を受けた熊本、大分両県の市町村に対して災害救助法を適用し、その後激甚災害に指定されました。

さらに、梅雨時期の連日の大雨で土砂災害も多発、被災地は複合災害化し、復旧活動はまだまだ思うように進まない状況となっていました。これらの影響で、人的被害、住宅被害、土砂災害、避難所生活、河川被害、ライフラインといった被害、影響が発生しました。

このような状況の下、現地災害ボランティアセンターより現地へのボランティア参加は控えるアナウンスがなされましたが、内閣府や熊本県との連絡調整会議として発足した被災地支援のNPOネットワーク会議「熊本地震・支援団体火の国会議」から、自己完結型でスキルやノウハウのあるNPOは積極的に支援に入ってほしいという要請を受け、IVUSAは4月19日から5月6日までの間、熊本県熊本市、西原村で復旧支援活動を行いました(第一次派遣)。

そして、複合災害化し、さらに阿蘇山の爆発的噴火に伴い被災地での復旧活動が思うように進まない状況で、生活復旧のための活動需要も多く、現地ボランティアセンターから再度ボランティア派遣の要請が来たため、7月15日から10月17日までの間、熊本県上益城郡益城町、阿蘇郡南阿蘇村、阿蘇市で復旧支援活動を実施しました(第二次派遣)。

期間：

2016年4月19日(火)～2016年5月6日(金)

第一次派遣

(熊本市1次隊)4月19日(火)～25日(月)13人

(熊本市2次隊)4月22日(金)～25日(月)17人

(西原村1次隊)4月28日(木)～5月6日(金)28人

(西原村2次隊)5月2日(月)～6日(金)102人

延べ参加人数合計：160人

2016年7月15日(金)～2016年10月17日(月)

第二次派遣

(益城町、現地調整隊)7月15日(金)～7月18日(月)7人

(南阿蘇村1次隊)8月4日(木)～8月6日(土)13人

(南阿蘇村2次隊)8月7日(日)～8月12日(金)157人

(南阿蘇村3次隊)10月14日(金)～10月17日(月)17人

延べ参加人数合計：194人

第一次、第二次合計：354人

場所：

第一次派遣

熊本県熊本市東区秋津小学校(熊本市東区秋津3丁目9-20)、秋津公民館(熊本市東区秋津3丁目15-1)、熊本県西原村高遊地区、古閑地区

第二次派遣

熊本県上益城郡益城町、熊本県阿蘇郡南阿蘇村、熊本県阿蘇市

活動内容：

第一次派遣

熊本県熊本市東区秋津小学校、秋津公民館…炊き出し、避難所運営支援全般

熊本県西原村高遊地区、古閑地区…ニーズ調査、災害VCサテライト運営、物資配給、子どもの遊び相手、避難所の衛生環境改善、家財出し、瓦礫の分別、瓦落とし、清掃活動、屋根のシートはり等を実施

第二次派遣

益城町…南阿蘇村隊の大規模派遣に向けた現地調整、被災家屋での財産保護、崩壊した法面の補強、農地の水路復旧

南阿蘇村1次、2次隊…納屋の解体、被災家屋での家財運び出しと清掃、土砂の掻き出し、被災家屋の消毒、家具などの洗浄

南阿蘇村3次隊…被災家屋での家財の運び出し、阿蘇市での火山灰除去

活動成果：

第一次派遣

熊本市東区

- 炊き出し約 2,000 食（4/20～4/24 の昼夜計 8 食）を秋津小学校、秋津公民館にて提供



- 避難所運営支援（避難所ニーズを受ける掲示板の設置、居住スペースの清掃と土足厳禁措置、子どもの遊び相手・勉強を教える、エコノミークラス症候群の注意喚起、生活不活発症の予防（体操）、手指消毒の措置、居住スペースの区画整備、動線確保、避難者・行政・学校の先生のミーティングの開催、その他避難者の自主運営に向けた取り組みの実施）



西原村高遊地区、古閑地区

- 高遊サテライト運営…周辺在宅避難者のローラーヒアリング 200 世帯中、一般ボランティアが引き受けられない特殊作業（家財だしなど）7 件の依頼ニーズを完了。さらに、子どもの一時預かり、物資の運搬・仕分け等サテライト業務全般
- 古閑地区…一般ボランティアが引き受けられない特殊ニーズ（家財だし、屋根の瓦はがし、屋根のブルーシート張りなど）17 件中 15 件のニーズ完了、2 件は安全確保ができないため未着手。さらに、地区の集会所や倉庫の清掃、子供の一時預かり

第二次派遣

- 10 件（益城町隊 3 件、南阿蘇 1、2 次隊 5 件、南阿蘇 3 次隊 2 件）のニーズに対応、完了。

- 活動時期によって、現地の状況に合わせて、活動場所や活動内容を柔軟に変え対応。
- 地震による被害があった地域は家財の搬出や運搬、土砂災害があった地域では土砂の掻き出し、降灰被害があった地域では火山灰除去が主な作業。

カウンターパート：

熊本地震・支援団体火の国会議、熊本県、熊本市、西原村、益城町、南阿蘇、阿蘇市、各災害ボランティアセンター



岩手県台風 10 号豪雨災害救援活動

期間：2016 年 9 月 9 日～15 日

場所：岩手県宮古市

参加人数：66 名

活動内容：災害 VC 運営支援、庭の土砂かき、床下泥かき消毒、家財運び出し、清掃など

カウンターパート：岩手県宮古市新里地区長



東日本大震災復興支援活動

期間：2016 年 8 月 24 日～8 月 29 日、11 月 5 日～6 日、2017 年 3 月 8 日～13 日

場所：宮城県山元町

参加人数：337 名

活動内容：草刈り、畑の整備、松林の整備、フィールドワーク、青巢神社祭り支援、慰霊祭・慰霊式典支援

カウンターパート：普門寺、おてら災害ボランティアセンター、浄正寺、土曜の会、NPO 法人生命と環境保全

子どもの教育支援

栃尾子ども隊（児童養護施設との交流）



全国的に児童虐待（身体的虐待、性的虐待、育児放棄、心理的虐待）の件数が増加しています。虐待を受けた子どもたちは、心理的に深い傷を持っているため、自己評価が極めて低く、そのため、虐待の影響は一生に渡り、子どもたちの人生に影響を与えます。

このような虐待や貧困などによって、親元で生活出来ない子どもが暮らす児童養護施設では、職員数や予算の不足などの理由から、集団での旅行や外泊などが簡単ではない現状があります。

IVUSA ではそんな児童養護施設の子どもたちを、栃尾ふるさとづくり活動の拠点としている古民家に招き、自然の中で楽しみ、施設や家庭では経験が少ない非日常の宿泊経験を通して、子どもたちに深い愛情を感じてもらい、子どもたちの「生きる力」を高めることを目標にします。



新潟県長岡市の児童養護施設 二葉寮との活動

日時：2016年6月17日～6月19日、11月18日～11月20日

参加人数（大学生）：62名（子ども）：延べ18名

新潟県見附市の社会福祉法人

新潟カリタス会 聖母愛児園との活動

日時：2016年7月8日～7月10日、10月14日～10月16日

参加人数（大学生）：62名（子ども）：延べ17名



生活困窮家庭の子ども向け学習支援

期間：通年（84回実施）

場所：京都府京田辺市

参加人数：延べ291名（対象の小中学生11名）

活動内容：学習支援

カウンターパート：京田辺市（委託事業）



安全ネット八王子運営補助

期間：通年（51回実施）

場所：東京都八王子市

参加人数：延べ211名

活動内容：障害を持つ子どもとの交流、学習支援

カウンターパート：安全ネット八王子

危機対応研究所

危機対応研究所

(Crisis Management Institute=CMI) とは

2006年の防災功労者内閣総理大臣表彰をうけ、IVUSA内の研究所として設置。

災害を含め、日常で起こりうるあらゆる危機に対処していくための方法を研究・教育し、思いやりのある共に生きる社会の構築を目指しています。

世田谷区地区防災計画専門委員会(ボランティア部会)

期間：通年 場所：東京都世田谷区

参加人数(受益者)：世田谷区民

内容：地区防災計画の見直しに当たり、災害時のボランティア受け入れの仕組みや、区内人的資源ネットワーク活用の計画化



世田谷区防災塾

期間：通年 場所：東京都世田谷区

参加人数(受益者)：世田谷区民

内容：地域防災計画のために出張所まちづくりセンター単位で、町会自治会など地域の防災関係者向け学習会やワークショップの開催

せたがや防災 NPO アクション

期間：通年 場所：東京都世田谷区

参加人数(受益者)：世田谷区民

内容：発災時に被災者から支援者になるべく、区内NPO団体のネットワーク作りや防災をテーマにした学習会、イベントの開催。

各種講演会

期間：通年

場所：全国

参加人数(受益者)：地域住民

内容：防災や被災地支援活動をテーマに、実際の被災地での支援活動を根拠に現場感ある視点で防災全般に対する備えや対応などを解説



千代田区ボランティアセンター運営委員会

期間：通年 場所：東京都千代田区

参加人数(受益者)：千代田区民

内容：千代田区内のボランティア活動の活性化に向けて、防災や若者支援の視点でもボランティアセンター運営に対するアドバイス

ちよだモデルネットワーク(CMN)

期間：通年 場所：東京都千代田区

参加人数(受益者)：千代田区在住、在勤、在学、訪問者

内容：災害発生時に千代田区内の民間セクターが協力した支援体制の構築に向けたネットワークづくりと防災啓発活動の展開

クラブ防災事業監修

期間：通年 場所：IVUSA クラブ設置場所

参加人数(受益者)：IVUSA クラブ設置場所周辺コミュニティ

内容：IVUSA クラブが所属大学や周辺地域コミュニティを対象に取り組む防災をテーマにした様々な取り組み全般の監修、アドバイス

研修、教材開発

期間：通年

内容：IVUSA が行う危機対応講習、現場系実務研修といった研修開発、教材監修

インストラクター養成

期間：通年

内容：学生インストラクター、マイスターの養成、練成会の指導

その他の事業



沖縄県遺骨収集事業

期間：2017年2月9日～21日

場所：沖縄県南城市

参加人数：164名

活動内容：第二次大戦の戦没者の遺骨収集、平和学習

カウンターパート：沖縄平和祈念財団遺骨収集情報センター



活動報告会

期間：2016年5月15日（西日本）、21日（東日本）

場所：大阪府茨木市（立命館大学いばらきフューチャープラザグランドホール）、東京都世田谷区（世田谷区民会館区民ホール）

参加人数：約1,500名

活動内容：2015年度の活動報告及び緊急時を想定した劇

学生お助けボランティア

期間：通年

場所：東京都世田谷区

参加人数：5名（利用者：1名）

活動内容：依頼を受けた簡易な作業やお手伝い



世田谷区市民活動支援コーナー運営

期間：通年

場所：東京都世田谷区

参加人数（利用人数）：延べ16,511名

活動内容：スペース管理、イベント実施、市民活動相談等

カウンターパート：公益財団法人世田谷文化財団



小田原ツデーマーチライフセービング活動

期間：2016年11月18日～20日

場所：神奈川県小田原市

参加人数：21名

活動内容：イベント運営サポート

カウンターパート：小田原市、小田原市教育委員会、箱根町、箱根町教育委員会、真鶴町、真鶴町教育委員会、湯河原町、湯河原町教育委員会、（一社）日本ウォーキング協会、朝日新聞社、NPO法人神奈川県ウォーキング協会

研修

IVUSA は、共に生きる社会をビジョンに掲げ、社会の課題解決という大きなテーマを掲げて活動を行っています。当然、その舞台は社会であり、その成果を上げるためには、学生自身が社会人としての知識やスキルを身に付ける必要があります。

そして、IVUSA には、四半世紀に渡る経験があります。この経験のベースになっているのが、リスクマネジメントです。これらを研修で身に付け、活動で実践する。この能力を身に付けた、社会が必要とする人材の育成を目指しています。



総合的コミュニケーション講習 (HRT=Human Relations Training)

自己理解・他者理解を深め、相手の考えや感性を知ること、チームで計画を進めることを通して、コミュニケーション能力を身につけるとともに、「サービスの受け手側」から「サービスの提供者側」へのマインドセット（心構え）の転換を図ります。

HRT では他の研修と異なり、初級、中級、上級が前期、後期に分かれています。前期は必須となり、後期は希望者が受講することができます。

受講人数：延べ 2,478 名



社会理解講習 (SRT=Society Reflect Training)

ボランティアは社会的課題解決のために実施するということを理解し、プロジェクトを実施するそもそもの目的である社会的課題がなぜ引き起こされるかという社会的背景や構造を理解します。また、世界と日本が抱えている課題・リスクなどについて包括的に学ぶとともに、国際協力・環境保護・地域活性化・災害救援・子どもの教育支援の各分野の事業がどのように相互に関連しているかについて学びます。

受講人数：延べ 3,290 名



危機対応講習 (CMT=Crisis Management Training)

この社会に存在するすべての危機を回避することは不可能です。しかし、この危機の存在を「知る」ことで、「予測」が生まれ、予測から「対応」が生まれます。この危機対応によって、危険を回避し、被害を最小限にとどめることは可能です。北海道南西沖地震の救援活動をはじめ、過去 20 年以上にわたる災害救援活動の現場で培ったノウハウ・知識・安全管理という考えを元に、誰もが身につけておく必要がある応急救命措置や身の回りの危機に対処する方法を学びます。

受講人数：延べ 2,006 名

「キャリアサポートクラブ」

キャリアサポートクラブについて

IVUSA の活動に参加した学生は、ボランティアや研修を通して心身のタフさや数多くの仲間、ステークホルダーと関係を築くコミュニケーション能力を培っています。

こうした経験を学生それぞれのキャリアに活かし、社会に還元していくことを目的として、IVUSA では「キャリアサポートクラブ」を設立し、主に学生の就職支援を実施しています。

キャリア支援の全体像

①自分の「軸」をつくる

ファーストキャリアの選択においては、まず自分自身が「どういった人生を歩みたいか?」、「将来成し遂げたいことは何か?」といったライフプランやキャリアプランが大切になっていきます。IVUSA では2～3年次の学生を対象に、理事やアドバイザーが就活を始める上での前提となる自己分析の講座を実施しています。

【具体的な活動】

- ・ 大手人材企業人事による就活スタートアップセミナー
- ・ 4年生主催による就職活動相談会
- ・ 2年生向けキャリアデザイン講座



②多くの人と対話し、社会を見つめる

自身にあった企業に出会うためには、様々な企業と「接点」を持ち、社会への理解を深めていく必要があります。そのために、業界・規模に縛られず多くの企業を誘致したマッチングイベントを企画しています。

このイベントを通して、出展企業へのインターン参加

や、選考活動を通して内定を獲得した学生もいました。

【具体的な活動】

- ・ 企業×学生の交流型マッチングイベント
＜過去の参加企業（一部）＞
第一三共(株)、(株)インテリジェンス、(株)APカンパニー、(株)星野リゾート、(株)IBJ、プルデンシャル生命保険(株)、(株)ベネッセスタイルケア、エン・ジャパン(株)など

③実践的スキルを身につける

相次ぐスケジュールの変更等により多様化する就職市場において、自身に納得感のある活動を行うことを目的として、アドバイザーによる講座を定期的に行っています。

【具体的な活動】

- ・ エントリーシート対策講座
- ・ IVUSA 卒業生による就職活動講座
- ・ 模擬グループディスカッション
- ・ 講師による模擬面接



目的：企業と学生の相互理解を深め、両者にとってよりよい出会いを創出する

日程：2016年12月17日

会場：京橋プラザ区民館

イベント内容：企業ごとのブースセッション、人事担当者と学生の交流会

参加学生数：84名（19大学）

参加企業：三菱UFJ不動産販売株式会社、テンプスタッフ株式会社、あいおいニッセイ同和損保株式会社、伊藤忠メタルズ株式会社、株式会社さなる、株式会社キッツ、三井不動産ビルマネジメント株式会社、東京サラヤ株式会社、株式会社エムール（計9社・順不同・敬称略）

協賛一覧

2016 年度にいただいた協賛の一覧です。
心から感謝申し上げます。

企業名(敬称略)	使用プロジェクト	品目・製品名	個数	
株式会社タイズ	栃尾ふるさとづくり活動4次隊 長岡まつり	【衛生管理】3Swater20ℓボックスタイプ、詰め替え用スプレーボトル	2個	
	長野森林整備活動			
	熊本地震災害救援6,7次隊			
	印旛沼クリーン大作戦			
	静岡県西伊豆町活性化活動6次隊			
	東日本大震災復興支援活動			
第一次山形県日本海清掃活動				
東京サラヤ株式会社	長野森林整備活動	【塩飴】「匠の塩飴」	750g×30袋	
	第12次中国緑化活動			
	竹林整備活動			
ミドリ安全株式会社	長野森林整備活動	【塩飴】経口補水塩熱飴・塩熱飴アミノプラス・塩熱グミ・塩熱飴・塩熱飴	5種類各450粒	
第15回九十九里浜全域清掃大作戦				
株式会社オーシャンライフ	印旛沼クリーン大作戦	【備品】ライフジャケット 無料貸出	15個、送料約2000円程度	
株式会社聖護院八ツ橋総本店	第12次中国緑化活動	【お土産】聖護院八ツ橋	1缶33本入り×14	
レッドブルジャパン株式会社	第15回九十九里浜全域清掃大作戦	【飲料】レッドブル	185ml×288本	
ライオン株式会社	第一次青森県日本海沿岸清掃活動	【玩具】ムシバラストランプ	25個	
	第12次中国緑化活動			
株式会社マンナンライフ	第15回九十九里浜全域清掃大作戦	【軽食】こんにゃく畑 クラッシュタイプライト バイナップル味	720個(30個×24箱)	
アスクル株式会社	第16回九十九里浜全域清掃大作戦	【備品】軍手	300個	
株式会社ユタカメイク	琵琶湖外来水生植物除去大作戦2016	【備品】ブルーシート	20枚	
赤穂化成株式会社		【飲料】熱中対策水	1200本(500ml 24本入×50ケース)	
大豊化学工業株式会社		【備品】防風ネット	1本(2m×100m)	
ダイヤ製菓株式会社		【体調管理】冷却ジェルシート	140袋	
株式会社緑水亭		【体調管理】首ひんやりサポート	99個	
株式会社シンセイ		協賛金		
株式会社川和大阪営業所		熊本地震救援活動	【備品】落ち葉袋	
			サンラップ	
			お椀	1250個
福德産業株式会社		沖縄県戦没者遺骨収集活動	高耐久切削性手袋	1,562個
	インド住宅建設活動	吸ちゃん(普通)		
	栃尾ふるさとづくり活動	吸ちゃん(小サイズ)		
	京都府阿蘇海環境づくり活動	軍手(白)		
	カンボジア小学校建設活動	あったか裏起毛滑り止め付き軍手		
	三重県熊野市地域活性化活動			
	東日本大震災復興支援活動	滑り止め付き軍手CuCuRa		
	フィリピン減災・環境保全活動			
ネパール山村支援活動				
興研株式会社	沖縄県戦没者遺骨収集活動	使い捨て式防塵マスクDS2	120箱(10枚入り)	
	カンボジア小学校建設活動			
	フィリピン減災・環境保全活動			
	インド住宅建設活動			
	ネパール山村支援活動			
ジェントス株式会社	沖縄県戦没者遺骨収集活動	投光器シリーズ GZ-300NEW	5個	
浅香工業株式会社	沖縄県戦没者遺骨収集活動	Little Elephant GTシヨベル	10個	
株式会社イナバ	京都日本海清掃活動	天然ゴム製背抜き軍手	100個	
株式会社永谷園		生みそ あさげ 3食入り	150個	
マルコメ株式会社		料亭のみそお徳用大容量	200個	
健栄製菓株式会社		手びかジェル60ml	120個	
ダイヤゴム株式会社		防寒用グローブ	200個	
株式会社モキ製作所		カンボジア小学校建設活動	無煙炭化器M50	2個
株式会社ビジョン		インド住宅建設活動	ポケットWi-Fi(レンタル無償化)	1個
	フィリピン減災・環境保全活動	1個		
	カンボジア小学校建設活動	1個		
	第12次中国緑化活動	1個		

メディア掲載

三重県熊野市との地域連携協定



毎日新聞 2017/2/20 付



東京新聞 2016/7/13 付

琵琶湖外来水生植物除去活動



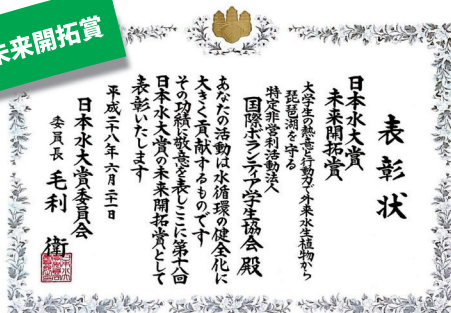
朝日新聞 2016/9/10 付

活動名	メディア	日付
カンボジア学校建設活動	South East Asia TV	2017年3月13日
	Kohsantepheap Newspaper	2017年3月13日
印旛沼クリーン大作戦	朝日新聞	2016年8月20日
	NHK首都圏NEWS WEB	2016年8月18日
	千葉日報	2016年6月8日
岡山県日生諸島活性化活動	KBS瀬戸内海放送	2016年9月28日
沖縄県戦没者遺骨収集活動	琉球新報	2017年2月12日
	NHK	2017年2月12日
京都府阿蘇海環境づくり活動	毎日新聞	2017年2月23日
	読売新聞	2017年2月26日
	京都新聞	2017年2月27日
	京都新聞	2017年2月28日
	京都新聞	2016年8月31日
	毎日放送(MBS)ウェブサイト版	2016年8月28日
	読売新聞	2016年8月29日
熊本地震災害救援	上毛新聞	2016年4月28日
	吉野熊野新聞	2017年2月15日
三重県熊野市地域連携協定	伊勢新聞	2017年2月20日
	毎日新聞	2017年2月20日
	南紀新報	2017年2月21日
	吉野熊野新聞	2017年2月21日
	中京テレビ キャッチ!	2017年2月17日

活動名	メディア	日付
茨城県古河市「災害時の支援活動に関する協定」	東京新聞	2016年7月13日
山形県飛島清掃大作戦	山形新聞	2016年7月24日
新潟県関川村七ヶ谷雪ほたるまつり	新潟日報	2017年2月8日
新潟県長岡市栃尾ふるさと創り活動	新潟日報	2016年5月3日
静岡県西伊豆町活性化活動	中日新聞	2017年2月25日
	東京新聞	2017年2月25日
	静岡新聞	2017年2月26日
	伊豆新聞	2017年2月27日
	静岡新聞	2016年8月17日
第6回十日町雪まつり活性化活動	新潟日報	2017年2月21日
	UX新潟テレビ21 スーパーJにいがた	2017年2月17日
長野県北信地域森林整備活動	須坂新聞WEB版	2016年8月20日
東日本大震災復興支援活動	日本農業新聞	2016年8月27日
	産経新聞	2016年8月27日
琵琶湖外来水生植物除去活動	中日新聞	2016年11月5日
	京都新聞	2016年9月19日
	ABC朝日放送	2016年9月10日
	NHK	2016年9月10日
	ケーブルテレビZTV	2016年9月11日
	びわ湖放送	2016年9月9日
	関西テレビ	2016年9月9日
	朝日新聞	2016年9月10日
	毎日新聞	2016年9月10日
	京都新聞	2016年9月10日

表彰

第18回日本水大賞未来開拓賞



第10回かめのり賞



東京キワニスクラブ青少年教育賞



学生団体総選挙2016
震災復興・地域活性化部門準グランプリ



収支報告

2016年度収支報告書（2016年4月1日～2017年3月31日）

（単位：円）

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
入会金	6,180,000	
学生会員受取会費	34,027,500	
その他の会員受取会費	675,000	40,882,500
2 受取寄附金		
受取寄附金	6,985,281	
受取寄附金（募金）	3,400,124	10,385,405
3 受取助成金等		
受取助成金	15,723,940	
受取補助金（業務委託収入）	10,636,154	26,360,094
4 事業収益		
国外事業（国際協力）	33,366,649	
国内事業（環境保護・地域活性化・災害救 子どもの教育支援）	104,919,380	
研修・クラブ支援事業	28,048,082	
情報発信事業	0	
その他の事業	1,227,790	167,561,901
5 その他収益		
受取利息	1,344	
雑収入	8,720	10,064
経常収益計		245,199,964
II 経常費用		
1 事業費		
国外事業（国際協力）	45,355,664	
国内事業（環境保護・地域活性化・災害救 ・子どもの教育支援）	112,221,073	
研修・クラブ支援事業	24,293,224	
情報発信事業	427,031	
その他の事業	9,408,407	
期首商品棚卸高	1,199,655	
期末商品棚卸高	▲2,327,151	
事業費計		190,577,903
2 管理費		
(1)人件費		
給料手当	5,172,834	
法定福利費	767,388	
福利厚生費	600,628	
人件費計	6,540,850	
(2)その他経費		
賃借費	9,152,980	
旅費交通費	2,450,815	
車両費	809,147	
通信費	601,562	
消耗品費	1,267,376	
諸会費	307,000	
租税公課	5,621,150	
支払手数料	200,686	
荷造り運搬費	229,376	
会議費	660,377	
慶弔費	165,832	
水道光熱費	792,817	
減価償却費	417,923	
図書情報費	42,784	
雑費	182,953	
業務委託費	2,745,920	
リース費	821,439	
ネット関連費	846,318	
その他経費計	27,316,455	
管理費計		33,857,305
経常費用計		224,435,208
当期経常増減額		20,764,756
税引前当期正味財産増減額		20,764,756
法人税、住民税及び事業税		150,000
当期正味財産増減額		20,614,756
前期繰越正味財産額		36,446,840
次期繰越正味財産額		57,061,596

団体概要

- ▶ 団体名 特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
(英文名 International Volunteer University Student Association 略称 IVUSA)
- ▶ 代表理事 下村 誠
- ▶ 学生代表 水口 裕喜 (関西大学 4 年 任期:2017 年 4 月 1 日~ 2018 年 3 月 31 日)
- ▶ 役員数 理事 14 名/監事 1 名
- ▶ 職員数 常勤 9 人、非常勤 4 人
- ▶ 会員数 約 3,500 人 (2017 年 3 月 31 日現在)
- ▶ 設立 1993 年 1 月 (法人格取得 2002 年 5 月)
- ▶ E-mail ivusa-office@ivusa.com
- ▶ facebook <http://www.facebook.com/npoivusa>
- ▶ Twitter @IVUSA_OFFICE
- ▶ 本部事務局 〒 156-0051
東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B 号棟 102 号室
電話 /FAX 03-6751-2683
- ▶ 関西事務所 〒 569-1121
大阪府高槻市真上町 1 丁目 1-18 Insist21 - 3B
電話 /FAX 072-601-5109



発行：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102
Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com